

四万十町集落活動センターけやきを中心とした 関係人口および新事業を創出する社会実験



「いのり星®」の放流

#四万十川 #新事業創出 #旧小学校校舎

目的

少子高齢人口減少化が進み小学校が休校・閉校になった地域において、旧小学校施設の利用法を提案・社会実験し、地域経済に資する新事業創出モデルを具体的に形成する



活動の概要

- **主な連携先**
四万十町・オルモ組合／四万十町町役場／高知県立・窪川高校／株式会社ランドマーク・ジャパン／書家・今柄紫峯氏
- **活動地域**
高知県高岡郡四万十町旧家地川小学校および四国電力佐賀堰堤上流域四万十川
- **活動期間**
2019年～継続中
- **活動資金**
任意団体・Links Keyaki活動資金(寄付金)／合同会社SOLARIS寄付金／四万十町役場、施設利用料免除措置を含む経済支援

連携にいたる経緯

2011年に、廃校跡にオープンした海洋堂ホビー館の参与観察的研究を行っている中で、旧家地川小学校の利用法について地域の方とやり取りする機会があり、以前より関わりを持っていた「いのり星®」の実施を軸とした関係人口創出の実践を企図するに至った。



体育館でのグランピング実験



活動内容

与謝野ゼミ生を中心に任意団体を立ち上げ、集落活動センターけやき(旧家地川小学校)の宿泊者を安定的に確保するために以下を実施した。1) 利用がほぼない体育館について有効利用を提案し、経済資源を獲得できる場に再生する。2) 地域の特産品を用いた新規商品を開発し、地域住民主体の新産業を創出する。3) 地域の住民と協力し、四国を代表する新しい観光イベントを創出する。4) 旧家地川小学校を利用した地域活性化活動を軸として、地域の高校生と共同し、都市一地域間高大連携による継続的地域活性化モデルを創出する。

これらの目的のために、2022年11月に、四国初となる「いのり星®」の放流を旧家地川小学校近辺の四万十川で行った。それとあわせて、体育館でのグランピング実験、生姜の佃煮等の販売社会実験、高校生と共同した大阪でのイベントおよび「いのり星®」放流での共同を実現した。また、体育館イベントとして書のパフォーマンスを行った。

これにより、地域主体の新事業創出の第一歩を踏み出すことができた。

活動の成果

- ▶ 小学校に近接する四万十川に、四国初となる「いのり星®」イベントを実施
- ▶ 旧小学校体育館を、おしゃれなグランピング施設として利用できることを実証
- ▶ 旧小学校を利用した新商品の販売とカヌーなどリクリエーションの展開可能性の実証

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶ 四万十川いのり星イベントの大規模化、定期開催化
- ▶ 生姜を用いた新商品のクラウドファンด์による開発推進と販売基盤の作成
- ▶ 旅行代理店、鉄道事業者との連携

四万十町の集落活動センターけやきを応援する Twitter



連携先からの一言

学生のテキパキそつなくこなしていく姿勢に感銘を受け、現在は、学生の皆様の取り組みについて、地域が如何に応援できるのかを考えています。また、地域が今後なすべき取り組みについても参考になりました。
(四万十オルモ組合 代表 山田隆俊氏)

社会学部 教授 与謝野 有紀 Yosano Arinori



社会関係資本論、ポジティブネットワーク形成の理論などの理論的、実証的研究を基礎として、現実の社会問題、特に地域間格差の問題を解決するための実証研究の展開を模索中



社会学部 教授 林 直保子 Hayashi Nahoko



意思決定の心理学などの研究知見を基礎として、地域コミットメントの測定手法の開発、地域資源活用の実証的研究を展開。関大ベンチャー・合同会社SOLARIS代表

